

令和4年度学校評価結果

田村市立芦沢小学校

本校教育目標 ～自ら学び高めあう児童の育成～

考える子 たすけあう子 じょうぶな子 やりとげる子

1 学校評価（生徒・保護者・教職員）アンケート結果（別紙資料）

2 学校評価

（学校で行った評価結果に対し、学校運営協議委員会から評価をいただきました。）

（1）全般を通して （※アンケート問1～2）

ほとんどの児童は楽しく学校生活を送っている。休み時間などは学年分け隔てなく校庭等で遊び、授業では周りの級友と関わりながら意見交換しあう姿が見られる。小さなもめ事なども子ども同士でうまく解決するなど人間関係なども問題がない。小規模校の良さを生かした、一人一人をよく理解し、個に応じたきめ細やかな支援の成果である。

学校行事や様々な活動を通して、大人の働く姿や職業などについて触れる機会を設けた。夢や目標を持って生活している児童が多く、将来の職業についてもしっかり考えている子どもも多く見られる。さらに具体的に夢や目標を意識した学校生活を送ったり、職業観を形成していけたりするように、保護者の協力も得ながら働きかけていきたい。

◎ 学校を超えた児童同士の交流や小さな問題の解決等、小規模校ならではの良さが生かされていると感じます。

◎ 楽しく登校できていると答える児童・保護者がほとんどであり、大変好ましい。少人数の長所を生かした学校生活が営まれていると感じる。また、学校行事など機会をとらえて将来の職業や生き方に目を向けさせる指導が功を奏し、児童が夢や希望をもつことにつながったという点を評価したい。

○ 「夢、目標」については、これからの学校生活や家庭での体験などで徐々に形成されていくものと思う。

● 子ども達が目標をもっているのが安心しましたが、親はまだ不安があるのでしょうか。

● 将来の夢や目標を子ども達はしっかりもって生活しているので、家庭、学校でサポートして育てていくこと。家庭の評価が低いので子どもたちと話し合う機会を創出していくことが必要である。

（2）学習面について （※アンケート問3～6）

今年度は授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学びとなる「学びあい」の授業」を意識して取り組んできた。ICT機器を活用し、授業導入や話し合い活動、まとめ・振り返りなどの場面で「学びあい」の授業となるよう工夫した。アンケート結果でも授業はわかりやすいと回答している児童が多く、A評価の割合は昨年度同様に高い数値を示している。

話し合い活動では積極的に話し合いを行い、慣れた集団では自信をもって活動できる

ようになってきた。苦手意識をもつ児童もなお見られるので、個に応じた支援を講じていきたい。

家庭学習や読書の保護者の評価が厳しい。家庭での学習や読書の内容や取り組みの様子から厳しく評価しているのではないかと考える。内容をさらに検討するとともに、家庭学習や読書についての保護者の共通理解を図りながら進めていきたい。

- 学校での授業改善の視点「学び合いの授業」は、分かりやすい授業につながっていると思います。より主体的に取り組めるよう、子ども達の「知りたい欲求」を引き出し、家庭学習（自主学習）や読書につなげることができればよいのではないかと考えます。
- 話し合いの部分では、それに対して苦手な児童もいるかと思うので、無理をさせず、対応してもらいたい。
- 家庭学習は子ども達のほうが理解し学習しているようなので、親も理解し必要な時にアドバイスすれば良いのではないのでしょうか。
- 多くの子ども達は、授業の分かりやすさは良好。話し合う活動にも積極的に取り組んでいる。しかし、消極的な子どもがいることから個々の個性に配慮しながら活動できるように先生方にサポートをお願いする。
- 話し合いや授業に対する積極性を高められるよう、子ども達それぞれに発言の機会をもたせて、成功体験を積み重ねられるような授業を行ってほしい。

(3) 礼儀・思いやりについて (※アンケート問7~9)

学校ではどの児童もあいさつができています。一方登校時には自分から挨拶ができなかったりする状況が見られる。恥ずかしがり屋が多いが、家庭や地域で「気持ちの良いあいさつ」ができるよう指導していきたい。

社会のきまりを守り生活することができる。守れなかったときも素直に指導を受け入れている。上学年が下学年を思いやり、さらに児童同士が相手を思いやる姿が多く見られる。些細な学校のきまりや家庭での約束事も守れるように保護者と協力し、児童の規範意識を育てていきたい。

- ◎ 子ども達の思いやりの気持ちが育つ、望ましい環境があると感じます。
- ◎ 南地区の子ども達はあいさつも礼儀もしっかりとしています。
- 統合してからも、上学年の下学年への思いやり、児童同士の思いやりを続けてほしいと思います。
- あいさつについては児童・保護者・教職員とも高評価であるが、表面上のあいさつとならないように常に大人がモデルを示していくことが大切であると感じる。社会のきまりや思いやりについては、児童・保護者が高評価であることに比して、教職員の評価が低い。「社会のきまり」という表現のとらえ方の違い意外に要因がないのかどうか考えていく必要があるのではないかと。

(4) 健康・運動について (※アンケート問10~13)

継続して養護教諭からの全体での指導や委員会の児童を活用した指導、個別の相談活動などの成果があり、健康に対する意識が高まっている。規則正しい睡眠がとれており、次の日の授業や活動に悪い影響がでる児童はいない。

食についても食育の成果があり、食べることに感謝し、残さないように食べている。低学年児童も苦手な食材も少しずつ克服し、食べる量も増えてきた。体育的な行事に向けて、登校後や休み時間に目的をもたせ運動に取り組ませており、運動に対して前向きである。しかしながら保護者の運動に対する評価は低い面も見られるので、運動と遊びの区別を付けさせさらに指導したい。

メディアコントロールでは、昨年の反省を受け、定期的に親子で評価したり、呼びかけを行ったりするなど工夫してきた。しかし親子での評価の差異が大きいので、メディアの使い方(生活の一部として活用)についてさらに検討していきたい。

- ◎ バランスの良い食事を意識する児童が増えていることは良い傾向であり、実効性のある食育の推進に感謝したい。
- 学校、養護教諭の継続的な相談・指導の成果で子ども達の生活リズムが保たれており、継続していただきたい。
- 元気に過ごせているように思われる。ただ、質問12の保護者の否定回答は、運動として考えるのとあてはまらないと思ってしまうのではと思う。
- メディアコントロールは家庭での保護者の役割が大きいと思いますので、根気強くメディアの活用法について、保護者とともに考えていくことが必要だと思います。
- メディアコントロールは子ども達との考えが違うようである。時間のけじめをきちんとする必要がある。
- 運動に関しては保護者の評価が低いが、学校での取り組みへの期待なのか、家庭での取り組みの反省なのかといった点からその要因を明らかにしていきたい。
- 家庭でのめあてをもった運動とは何かが分からない状態かと思います。自主学习同様に実施状況を記録、定期的に評価する仕組みが必要ではないかと考えます。

(5) 学校運営等について (※アンケート問14~23)

少人数の良さを生かし、日頃から一人一人に声をかけ、変化に早く気づき対応している。また、定期的な児童への生活アンケートやQ Uテストの分析などから実態を把握し対応に取り組んでいる。問題があったときにはすぐに保護者に連絡し対応しているのでその姿が評価されている。

学校の様子を便りやホームページ等で定期的に伝えており、高い評価を得た。今後も継続していきたい。清掃については「もくもく清掃」を今年度立ち上げ、全校生あげて取り組んでおり、美しい教育環境の維持に努めてきた。PTA活動については良い評価をいただいた。統合に伴い、芦沢小委員会や各部会など保護者や地域を巻き込んだ会合を多く行った。

その他の本校の教育活動についても良い評価をいただいたので統合後も継続して取り組んでいきたい。

- ◎ 学校統合に向けた話し合いを計画的に実施され、保護者や地域の皆様にも理解が進んでいるように思われます。
- ◎ 児童数が少なくともまとまりも良く、地域との関わりも良く、子ども達も素直な様子がうかがえます。
- 今後子どもたちがスムーズに新しい生活に受け入れられ、楽しい学校生活を送れるよう期待します。
- 教職員の厳しい評価があることは、それだけ真摯に生徒や保護者と向き合っているためだと感じました。
- いじめのない学級づくりについて教職員の評価が低い点は、喫緊に解決すべき課題である。もし困り感をもつ学級担任がいるとすれば、チームで解決するといった適切で迅速な対応が必要であろう。

(6) 総括

アンケートの結果からは、児童、保護者ともおおむね良い評価であった。いくつかの項目で児童と保護者の評価のずれが見られたのでとらえ方の違いを把握すると共に、親子で話し合い確認する機会が必要であると考えます。

良い評価の中でも、Aと評価する割合の少ない、家庭学習や読書、バランスの良い食事、運動やメディアコントロールについては引き続き次年度の課題として取り組んでいきたい。

今年度で本校は閉校となるが、児童は、家庭や地域、学校において多くの大人に見守られながら楽しく生活している。この環境で生活することにより社会のルールや思いやりの心が育まれており、この良さを次年度も継続させていけるよう教育課程に反映させていきたい。

学校運営協議会の評価を受けて

- ◇子ども達が夢や目標をもてるように
 - ・多種・多様な体験活動の推進する。
- ◇学びの変革を踏まえた教育活動
 - ・ICTを活用し、多様な学び方を試行する。
 - ・SDG s の視点を踏まえ、探求的な学びを推進する。(特別活動を軸に)
 - ・読み解く力を中心に確かな学力を身に着ける。
- ◇さわやかで思いやりのある子どもを育てるために
 - ・見つけ、つながる道徳を推進する。(ひと工夫、つながる道徳)
 - ・ふれあい活動の充実(異学年交流等) ・心を豊かにする図書館教育の実施
- ◇健康で、たくましくやりとげる子どもを育てるために
 - ・元気なからだづくりを進める。(運動体づくり PG、自分手帳の活用)
 - ・元気な心づくりを進める。(地域に根差した体験活動、児童を主体とした行事や企画の立案)